

賞賛で使用する「ながら」と「つつ」に見られる特徴について —Twitter の用例から—

市 川 真 未

要 旨

「ながら」と「つつ」に関する先行研究を概観したうえで文機能に注目し、Twitter の用例から「ながら」と「つつ」に見られる特徴を探った。その結果、「つつ」は「ながら」と異なり、前件と後件の関連性がそれほど高くない場合でも用いることができるということが分かった。Twitter でみられた賞賛においては「ながら」より「つつ」が好まれる傾向にあったが、これは Twitter では対人への配慮よりも受信者を引き込む表現が重視されるため、賞賛の意図を示しながら、発信者の微妙な心情を表現することができる「つつ」が多く用いられたと考察した。

キーワード：ながら、つつ、接続助詞、賞賛

はじめに

「ながら」と「つつ」の違いについて、多くの文法書や日本語能力試験用の参考書¹⁾では以下のような使い分けの説明をしている。

ながら 行きながら、小さいながら、子供でありながら

- a 同じ人が同時に二つの動作を行うことを表す。普通は意志的な継続動詞が使われる。
- b 前件と後件に矛盾がある時、「けれども」の意味になる。「ながらも」となることもある。

【注】名詞、副詞に直接続く言い方もある。

つつ (動詞の連用形だけ)

- a ながらと同様二つの動作が同時に行われることを表す。文語的な書き言葉で使われる。
- b 前件と後件に矛盾がある場合には逆説になり、「も」を伴うことが多い。

『接続の表現』 pp.74-75

それぞれの意味と使い分け

- (1) 「ながら」「つつ」は、2つの動作が並行して行われることを表わす接続助詞である。ただし、「つつ」は文章的である。
- (2) 「ながら」と「つつ」には、それぞれの例文①のような順接用法のほかに、例文②のように「…つつある」の形で、動作・状態の継続を表わす文章的な用法がある。

関連語 「ながら」

前件と後件が矛盾する内容にあることを表わす。

「彼は口ではすぐやると言っておきながら、なかなか腰を上げようとしない。」

『使い方の分かる類語例解辞典』 pp.1128-1130

ここでは「ながら」と「つつ」を「話し言葉」、「書き言葉」という文体的な差異から述べているが、実際はそれだけでは説明がつかないものが多い。

本稿ではまず、先行研究で取り上げられている「ながら」と「つつ」の差異²⁾を Twitter から収集した用例と照らし合わせながら概観し、指摘していく。そして、収集した用例を文機能の観点から整理し、その中で特に賞賛で用いられている用例に注目し、その特徴を探る。

1. 「ながら」と「つつ」に関する先行研究

1.1. 文体差からの考察

先述した文法書や日本語能力試験用の参考書では、「ながら」と「つつ」の違

いは文体差であると述べられていた。しかしながら、日本で最もユーザーの多い SNS と言われている Twitter には以下のようなつぶやきが見られた³⁾。

(1) お風呂上がって明日ってか今日の準備しつつ、作業しようと思い携帯探してたねんけど見つからなくて。1時間自分の部屋探し続け、リビングで見つけるという技を披露してました ☺☺☺ なにそれ話。携帯なくす技なくしたい ☺👉

(2) カッコ良すぎて、ハシャいだ！笑 帰り道に余韻に浸りたくて、曲聴き つつペンライトを振りながら歩いたよ。笑 ペンライトっていいね 👉

Twitter は何気ない気持ちを話し言葉を使ってつぶやく SNS だとされているが(高橋 2016)、(1) や (2) のような例が多くあることから「つつ」が書き言葉的で「ながら」が話し言葉的であるという説明は適切ではないと言えるだろう。

1.2. 動詞の性質から捉えた差異

益岡(2000)は、「ながら」に先行する動詞が「主体動作動詞」なら「動作継続」か「反復行為」を表わし、「主体変化動詞」であれば「結果継続」を表わすとしている。さらに、「主体変化動詞」の場合は意志動作が用いられ、「主体動作動詞」は、意志的動作と無意志的動作に大別できるとした。この「主体変化動詞」と「主体動作動詞」の分類は新たな観点からの分類方法であるが、その線引きは難しい。たとえば、「手をつなぎながら橋を渡る」の「つなぐ」という動詞を、つないでいない状態からつないだ状態になる「主体変化動詞」と捉えれば「結果継続」になるが、「主体動作動詞」として捉えれば「動作継続」か「反復行為」に解釈が可能になる。

川越(2002)は、「ながら」には目的の異なる2つの動作の「同時進行」と逆接とは別の「て」で言い換えられる「様態」としての用法があると述べ、以下の2つの例を提示している。

(3) ラジオで音楽を聞きながら、日本語の勉強をした。

≠ ラジオで音楽を聞いて、日本語の勉強をした。

(4) 発音のテープを聞きながら、日本語の勉強をした。

= 発音のテープを聞いて、日本語の勉強をした。

(川越 2002:52 より抜粋)

例(3)は「同時進行」、例(4)は「手段」を表しており、この「て」で置き換えられる「ながら」は「様態」の用法であると述べている。「同時進行」の場合は、用いられる動詞に意志性を必要とするが、「様態」の「ながら」は、そういった制限がなくなるとしている。このような意志性のない動詞を用いている「ながら」は、Twitter 検索の結果、以下の例を含む2例のみであった。

(5) MV やらをダウンロードして“Official Video”とかまで曲名で表示され
ながら聴いてる人が多いけど全然分かってないよな

これは、ミュージックプレイヤーに 表示される曲名を変更もせず、“Official Video”というタイトルのまま音楽を聴いている人に対するつぶやきだと見てとれる⁴⁾。この用例は川越(2002)の理論通り、「様態」の「ながら」に分類可能だと考えられる。しかしながら、意志動詞が用いられた「ながら」が必ずしも「同時進行」になるとは言えない⁵⁾。

(6) 壁にしがみつきながら考えるけど 大野君「何だこれ?」「あ～、あ～ダメっ!」壁から落ちる

(7) 珍しく「今日俺が食器洗うよ!」って言ってくれたけど、台所に文句言われるし、ぼたぼた水垂らしながら生ゴミ持ち運んでるし、本当に食器洗うだけで、他の細かい片付けしてないしで、結局は自分でした方が早かった件←

(6)の用例では「しがみつく」という意志性のある動詞が用いられてはいるが、「しがみついて考える」と言い換えることも可能であり、「様態」のようにも受け取れる。(7)も「ぼたぼた水垂らして生ゴミ持ち運んでる」と言い換えてできる。このように、意志動詞が用いられている「ながら」は「様態」と「同時進行」、どちらにも解釈が可能であるものも多く、線引きが難しいと言える。

村木(2006)は前件の動詞の限界性⁶⁾に注目し、動詞が非限界性なら、「同時(進行)性」をあらわし、限界性なら前件が後件に時間的に先行する「継起性」を表

すとしている。

- (8) 何よりキャラクターを大切にしたいものにしたという思いを、ネクソンスタッフの方々の厚いご協力をいただきながら実現したゲームでした。

「実現する」前に「ご協力をいただく」という事態が終了した、つまり、「ご協力をいただく」ことに限界性があると捉えれば、(8)は「継起性」を表わしていると考えられる。

このように動詞の性質から「ながら」と「つつ」のそれぞれの特徴を探っていくことは妥当性も高く、重要であると言えるがその動詞の捉え方は受け取り方によって変わってくるため、意味を明確につかむことは難しい。また、先ほど挙げた「ながら」が使用されている用例を「つつ」で言い換えてみると、違和を感じるものが出てくる。例えば(6)は壁から落ちないようにする動作主の意識を推測することが可能だが、「壁にしがみつきつつ考える」とすると「しがみつく」という行為の重要性が薄れ、「考える」という行為を重視している印象に変わる。このような話者や書き手（以下発信者）の意識や意図に焦点を当てた分析・考察は、「ながら」と「つつ」の使い分けをする上で重要になってくると考える。

1.3. 発信者の意識から捉えた差異

梶川（2012）では「ながら」と「つつ」はほとんどの場合、言い換え可能だが、「ながら」で表される付帯状況は、後件事態の成立に何らかの影響を及ぼし得ると話者によって認識されるものであり、「つつ」で表されるのは後件事態によって妨げられずに維持しようと努められる付帯状況であると述べている。このような前件と後件の関係性の違いによって、従来、周辺的な用法として扱われていた例、すなわち現実には同時に行われていない動作の表現（例：働きながら勉強している）についても無理なく解釈できると主張している。

- (9) このミスコン活動を通して本当に貴重な経験をさせて頂きました！この経験を元に、私に関わってくれた全ての方々に感謝しつつ、今後に活かして前向きに生きていきたいです✧

梶川（2012）の観点から（9）を捉えれば、「感謝する」ことが「今後に活かして前向きに生きていく」ことに妨げられずに維持しようと努められると発信者

が考えているということである。つまり、後件に何らかの影響を及ぼす前件の場合、「つつ」より「ながら」が選択されやすくなると言える。(9)の「つつ」を「ながら」で言い換えると、「今後に活かして前向きに生きていく」過程で、感謝の気持ちを持ち続けているという印象に変化する。このことから、「ながら」に前接する動詞は継続的であり、後件の事態と重なる時間が長いのに対し、「つつ」に前接する動詞は断続的なものでも可能なのではないかと考えた。

(10) 音楽聴きながら勉強して、ケータイいじってる w

(10)' 音楽聴きつつ勉強して、ケータイいじってる w

(10) は音楽を聞いている時間と勉強している時間が同程度だという印象だが、(10)' になると音楽を聴くという動作が断続的に行われているという解釈が容易にできるようになる。また、音楽を聴くことと勉強することを交互に行い、その一連の流れを発信者自身が大きくとらえて同時進行を表しているという解釈も可能である。つまり、「つつ」は「ながら」よりも大きく事態を捉えたうえで、聞き手や読み手（以下、受信者）にいくつかの可能性を想像させるといった働きがあるといえよう。

1.4. 先行研究のまとめと本稿の立場

これまで「ながら」と「つつ」に関する先行研究を Twitter の用例を取り上げつつ概観してきた。動詞の性質からそのそれぞれの特徴を探る先行研究を取り上げたが、そのどれもが前件の動詞に注目したものであり、後件の事態には触れていない。つまり、文全体の意味は考慮していないということである。それぞれ個別の特徴は捉えていたが、発信者がどのような意図で「ながら」と「つつ」を使い分けているのかまでは言及されていなかった。

文体の差異が使い分けの差異にそれほど影響しないと考えるならば、やはり発信者の発話意図がその使い分けに大きく関係していると考えるのが妥当である。両者が入れ替え可能な用例においてもその与える印象に差異があり、それが文体の差ではないとすると、そこには何か別の要因があるのではないだろうか⁷⁾。

そこで本稿は、文機能の観点から用例进行分类し、それぞれの用例に見られる特徴から「ながら」と「つつ」の差異を探っていきたい。

2. 本稿の観点

本稿は文機能の観点からそれぞれの差異について考察していく。山岡（2008）では文機能を「コミュニケーションにおけることばの対人的機能として、命題条件によって規定される文レベルの機能」とし、語用論的条件を考慮した発話レベルの機能である発話機能と区別している。今後、発話機能から捉えた調査もしていきたいと考えているが、本稿では Twitter を使用し用例を収集するため、文機能の観点からのみの考察とする。

山岡（2008）は命題内容条件によって規定される「文形式」と発話参与者間の権限や利害などの「発話状況」との組み合わせから、それぞれの発話機能を決定し、以下の 5 分類を提示している⁸⁾。

範疇	目的	適合方向
{ 策動 } (Deontics)	参加者の行為に対する制御機能	世界を言葉へ (↑)
{ 宣言 } (Declarations)	世界を変化させる遂行機能	双方向 (↕)
{ 演述 } (Assertives)	世界の現象に関する記述機能	言葉を世界 (↓)
{ 表出 } (Expressives)	参加者の心情に関する遂行機能	無方向 (Φ)
{ 形成 } (Formations)	会話を形成するメタ的機能	一定しない

3. 方法

10 月下旬～12 月上旬に Twitter 上で Tweet された「ながら」と「つつ」の用例、それぞれ 329 例を山岡（2010）の理論をもとに文機能別に分け、それぞれの傾向を探った。分類が明確にできないものは対象外とし、賞賛と見受けられる用例については、それぞれの接続助詞でつながられた前件と後件の動作主を確認した上で、他者に関する陳述であり、なおかつ肯定的な評価をしているもののみを抽出した。

4. 結果と考察

「ながら」と「つつ」の用例 329 例のうち、文機能が文形式から判断できたものは「ながら」267 例、「つつ」295 例であった⁹⁾。Twitter の特徴なのか、主題が省略されているものが全体の 10%～20% を占めていた。

分類方法に関しては、他者に関する陳述の中で肯定的評価語（かわいい、かっこいい、すごい、きれいなど）を含む用例を賞賛に分類した。その他の機能の分類に関しては山岡（2010）の発話機能論の枠組みを参考にしたが、今回はそれらについては深く触れない。また、{宣言}に分類可能な用例は「ながら」「つつ」とともに0であった。

それぞれの接続助詞が使用された用例についての分類を以下の表1にまとめた。

表1 Twitter 検索の結果

文機能	策動							演述		表出					用例合計
	提供要求	提供	依頼	勧誘	禁止	許可要求	命令	陳述（自己）	陳述（他者）	賞賛	感謝	不満表明	非難	願望	
ながら	1	6	8	5	1	1	1	163	69	3	0	4	1	4	267
つつ	1	0	9	5	0	0	0	122	108	30	5	0	0	15	295

この調査では、半数の用例が演述に分類された。中でも自己に関する陳述はもっとも多く、「ながら」が163例、「つつ」が122例であった。

(11) 25日楽しみすぎてワクワクしながら仕事頑張ってるよ(*´ェ`*∩ 早く会いたいな～♡♡♡

(12) 職質されて気持ちがブルーになりつつおつかい終わらせて帰るバスを待ってたらJC 集団の1人が「ナユタン星人さんいいよね！」って話してて どの歌い手が好きー？ みたいな話してたから面白そうだと思って耳を傾けてたら そのうち1人が「らーくん！」とか言ってお茶吹いたww

「ながら」と「つつ」で表現できる「同時進行」や「様態」などは、もともとの使い方が陳述に分類されうるものであるため、上記のような結果になったのは当然である。他者に対する陳述も同様に、他者の「同時進行」や「様態」を陳述するというものであった。

賞賛に分類された例文には以下のようなものが見られた。

- (13) 実利的でありながら、繊細で聡明で愛想がよく、思いやりを持っている
- (14) 三浦大知さんのダンス見るたびに同県出身つながりで、つなしもこんな感じでキレッキレの迫力あるダンスするんだろーな〜って妄想をする。
ガチで歌いながら踊るって本当にすごいな……

これも他者に関する陳述であるが、(13)は「ながら」で接続された前件と後件に肯定的評価語が使用されている。この用例は「て」で置き換えられる、並列関係であると言える。「繊細」「聡明」「愛想がいい」「思いやりを持っている」はすべて肯定的評価語であり、それを並べた関係であると捉えられる。(14)は「歌うこと」と「踊ること」が同時に行われることに対し、評価者が肯定的な評価を与えた例である。これらの例は「ながら」に特別な用法があるわけではなく、賞賛の文機能の中で「ながら」が用いられたにすぎない。これは「つつ」の用法を見るとその特徴の違いが見えてくる。

- (15) 特有の臭みを活かしつつも適度な配分に整えられ食べやすさとの両立も図られた濃香とんこつ（¥700）は、高密度な豚骨の味わいを隅から隅まで満喫するための一杯。
- (16) ベネズエラ経済でもっとも影響力のある人物はホームセンターの店員…暗殺されそうになってアメリカに亡命してからホームセンターの店員で食いつなぎつつベネズエラの経済の動向を握ってるの、わけがわからなくてすごい……

Leech (1983) のポライトネス理論の是認の原則 (Approbation Maxim) にある「(b) 他者への賞賛を最大限にせよ」に沿って考えると、(15)は前件の「独特の臭み」には言及せず、「適度な配分に整えられ食べやすさとの両立も図られた濃香とんこつ」の部分のみで評価をすることが好ましいと言える。(16)も「ホームセンターの店員で食いつなぎ」ことは言及する必要はないような印象を受ける。これらの前件があることにより後件への意外性が生まれ、肯定的評価語のみで賞賛をしたときより、大きな効果が生まれたとは考えられないだろうか。また、Twitter は相手のいるコミュニケーションとは異なり、配慮表現を用いて相手と

の関係を良好に保とうとすることよりも、受信者を引き込む表現を用いることが重視されるためにこのような例が多く収集できたのではないかと考えられる。

梶川（2012）は、『『ながら』は前件が後件事態の成立に何らかの影響を及ぼし得ると話者によって認識されるもので、『つつ』で表されるのは後件事態によって妨げられずに維持しようと努められる付帯状況である』としていたが、これは「つつ」より「ながら」の方が、前件と後件との関連性が高いとも言い換えられるだろう。「つつ」が用いられた例には、肯定的な評価をしてはいるが、最大限にはされていなかったり、皮肉とも捉えられる文が賞賛の後に続いているものもあった。このことから、「つつ」は「ながら」より前件と後件で結ばれるものの自由度が高いと考えられる。「つつ」には受信者側が自由に後件の事態を想像させることができる特徴があるのかもしれないが、これについては今後さらなる調査が必要であろう。

今回収集されたすべての用例がこのような使い方だったわけではなく、「ながら」と同様、もともとの用法に基づいた例も多く見られた。

(17) 今度出るらしいデローザの iPhone ケースのデザインがクラシック感がありつつもぱっきりとしたデザインで素晴らしすぎる !!

(18) しかし改めて言われると確かに、着氷直後の遠心力に逆らって足を振り上げつつランディングの流れも維持するって、すごい超人技。。。単に可動域が広いだけでなく、それをコントロールする筋力やバランス感覚があってこそなんだな。

文機能から「ながら」と「つつ」を捉えたことにより、主に「つつ」に見られる特異性を見つけられたのではないかと考える。しかしながら、他者に関する陳述や賞賛に分類された用例だけでなく、不満表明、願望、感謝などに分類されたものとも比較しながらさらに細分化して分析していく必要はある。これらは今後の課題としたい。

おわりに

本稿では動詞の性質に注目した先行研究を概観した上で、文機能の観点から「ながら」と「つつ」を捉え直し、その差異を賞賛と判断できる用例に注目しながら論じた。Twitter による用例収集、分析の結果、Twitter でみられた賞賛に

においては「ながら」より「つつ」が好まれるという結果になった。これは「つつ」は「ながら」に比べ、前件と後件の関連性がそれほど高くないため、賞賛の意図を示しながら、発信者の微妙な心情を表現するのに適していたと考えられる。先述した Leech (1983) のポライトネス理論でも対人関係を良好にするためには、他者への賞賛は最大限にすることが望ましいとしているが、Twitter においてはそういった配慮が必要とされないため、「つつ」を用いてありのままの心情を生き生きと表現することが優先されたのだとまとめた。しかしながら、今回の調査・分析では動詞の性質などは重視しなかったため、今後はそれらにも目を向けつつ、対人関係を意識した発話機能の観点からの調査もしていきたい。また、今回は Twitter による検索だけであったため、今後はコーパス検索やアンケート、インタビューなどの調査も行っていきたいと考える。

注

- 1) 文法書は庵ほか (2001)、森田 (1980) の 2 冊を、日本語能力試験用の参考書は遠藤 (2009・2010)、行田ほか (2010)、友松ほか (2010)、アスク出版編集部 (2008) の 5 冊を調べた。本文で取り上げたものと同様の説明がなされていた。
- 2) 主に順接用法に焦点を当てて概観する。
- 3) 「ながら」と「つつ」の用例はそれぞれ 329 件集めた。(検索期間 10 月下旬～12 月上旬)
- 4) 動画サイトなどから MV をダウンロードすると動画サイトで表示されていたタイトルがそのまま曲名のタイトルになるようである。これは著作権侵害である。
- 5) 「『様態』と『同時進行』の線引きが難しい」と言った方が的確かもしれない。
- 6) 北原 (1999) は事態の終了時点があるものを限界性、ないものを非限界性とした。
- 7) 使用する動詞や語彙によって発信者が「ながら」と「つつ」を使い分けしているとも考えにくい。
- 8) 本稿では発話は対象としないため、{策動||宣言||演述||表出}の 4 分類で考える。
- 9) 対象になる用例は全用例数の「ながら」は 8 割、「つつ」は 9 割であった。

参考文献一覧

〈書籍・研究論文〉

Leech, G. (1983) *Principles of Pragmatics*: Longman (邦訳: 池上嘉彦・河上誓作訳 (1987)

『語用論』紀伊国屋書店)

“生きた” 例文で学ぶ 日本語表現文型辞典 2008/9/25

アスク出版編集部 (2008) 『“生きた” 例文で学ぶ 日本語表現文型辞典』アスク出版

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 池上素子（1997）「「のに」・「ながら」・「ものの」・「けれども」の使い分けについて」北海道大学留学生センター紀要 第1号
- 遠藤ゆう子（2009）『日本語能力試験2級文法：45日間で基礎からわかる』三修社
- 遠藤ゆう子（2010）『45日間で基礎からわかる 日本語能力試験対策N2文法総まとめ』三修社
- 梶川克哉（2012）「複文表現の意味的カテゴリー ―「目的」「付帯状況」をめぐる―」名古屋大学大学院国際言語文化研究科 日本語文化専攻 博士論文
- 川越菜穂子（2002）「「ながら」節の用法の記述について―付帯状況・様態・逆接」『人間文学部研究年報』第4号 pp.53-62 帝塚山学院大学
- 北原博雄（1999）「日本語における動詞句の限界性の決定要因―対格名詞句が存在する動詞句のアスペクト論―」黒田成幸・中村捷編『ことばの核と周縁―日本語と英語の間』くろしお出版
- 行田悦子・渡辺摂・深谷久美子（2010）『日本語能力試験N2/N3語彙対策標準テキスト』秀和システム
- 高橋暁子（2016）『Twitter 広告運用ガイド』翔泳社
- 富田隆行（1997）『続・基礎表現50とその教え方―これだけは知っておきたい日本語教育のための単行本』凡人社
- 友松悦子・和栗雅子・宮本淳（2010）『どんなときどう使う日本語表現文型500―日本語能力試験N1・N3の重要表現を網羅』アルク出版
- 長尾栄達（2009）「情報倫理と著作権問題」『応用倫理・哲学論集』第4号 pp.68-82 東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室
- 益岡隆志（2000）「「ながら」とその周辺」『日本語文法の諸相』、pp.201-214 くろしお出版
- 村木新次郎（2006）「「一ながら」の諸用法」益岡隆志・野田尚史・森本卓郎（編）『日本語文法の新地平3 複文・談話編』、pp.1-23 くろしお出版
- 森田良行（1980）『基礎日本語〈2〉一意味と使い方 角川小辞典〈8〉』角川書店
- 山岡政紀（2008）『発話機能論』くろしお出版
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現 日本語語用論入門』明治書院
- 横林宙世・下村彰子（1988）『接続の表現（外国人のための日本語 例文・問題シリーズ）』荒竹出版

〈辞典〉

小学館辞典編集部（1994）『使い方の分かる類語例解辞典』小学館

〈Web サイト〉

MarkeZine ニュース「Twitter、国内月間利用者数 4000 万人を突破」

<http://markezine.jp/article/detail/25542>（閲覧日：2016 年 11 月 10 日）

（いちかわ・まみ、創価大学日本語・日本文化教育センター助教）